

中島勇喜初代会長のご逝去を悼む

会長 江崎 次夫

日本海岸林研究会を立ち上げられ、それを発展的に解消し、日本海岸林学会の設立にご尽力され、初代会長を務められた中島勇喜先生が急逝されました。山形大学理事・副学長を務めていた中島先生のご葬儀は、中島家と山形大学の合同葬として、去る5月28日に山形大学農学部がある鶴岡市で厳かに執り行われました。

先生は平成23年5月24日未明、大学本部のある山形市の山形大学病院でご家族に見守られながら静かに息を引き取られました。昨年夏、理事副学長の激務のなか体調の異変を訴えられ、精密検査で胆管腫瘍が発見され、急に手術することになりましたという電話をいただきました。私が、それならば、積極的に手術や抗ガン剤治療をして治したらいいですよ、と申し上げたら、「うん、頑張るからね。」とお答えになった声が今も耳の底に残っています。

手術が終わったあとの数日後、辛い宣告があった日、私も見舞いに行きあわせたので、奥様やご子息様らご家族のお辛い心中、先生の受けた衝撃の大きさを直接受け止めた次第でありました。以後、抗ガン剤治療が始まり、年末は小康を得られたようで、大学に通いながら抗ガン剤治療を受けているとお電話を頂きました。快方に向かっていただきたいと心より祈っていましたが、1月に再入院、以後、文字通り薄氷を踏む思いで、山形の中島先生のことを気になってばかりいました。それでも3月、私の退職パーティに、はるか愛媛まで奥様とお越し戴けるというご意向でした。が、突然の東日本大震災によって、日本中の交通網が寸断され、松山に行く方法がないからと、長い祝辞を書いておくって下さいました。かくして、中島先生の祝辞が今は私の宝物になっております。

4月の末にどうも具合がよくないようだと言われた農学部の先生からお知らせいただいたとき、震災地域を横目に難儀しながら私は山形に行きました。先生はご自分がもう長くないことを分かっていたようでした。私はまた会いに来ると約束して帰りましたが、遅滞がちな交通網など、震災の被害のただなかを抜けての帰路でした。そして、5月24日ついに会うことが出来なくなってしまったのです。

中島先生は、昭和19年2月17日生まれで、亡くなられたときは満67歳でした。熊本県生まれで、熊本高校から鹿児島大学農学部林学科を経て九州大学大学院農学研究科修士課程、博士課程と進まれ、博士課程単位取得満期退学後、昭和47年6月からの九州大学農学部助手を経て、昭和53年山形大学農学部助教授に着任されました。同年12月九州大学農学博士号取得。平成4年山形大学農学部教授に昇進され、以後数々の管理職に就かれ、山形大学農学部、山形大学本部の牽引役として活躍されました。

平成11年山形大学農学部附属演習林長、平成15年山形大学評議員、平成17年山形大学農学部長、そして現在の山形大学理事・副学長に平成19年から就かれ、現在はその二期目を務められていました。

専門分野は林学・森林工学・海岸砂防学で、「飛砂防止に関する基礎的研究」「インド洋大津波に対する海岸林の効果の検証と今後の海岸域の保全のあり方」などが代表的な研究成果でした。学会活動は、会長を務められた日本海岸林学会（平成13年～20年 会長）以外に、日本砂丘学会（平成12年～22年 評議員）、砂防学会（平成13年～18年 理事）、日本雨水資源化システム学会（平成17年～23年 理事）と多方面に渡り、受賞歴は、韓国海岸林研究会賞（平成18年）、日本海岸林学会賞（平成20年）と文字通りの大活躍でした。

中島先生が日本海岸林学会誌に発表された論文は、共著で、平成14年に「庄内空港緩衝緑地に植栽されたクロマツの生育状況及び土壌環境について」、平成17年に「海岸クロマツ林の樹冠投影面積、材積の関係ー山形県遊佐町の事例ー」、平成18年に「松山市周辺における樹種調査と葉面の塩分付着量について」、平成19年に「マサキ (*Euonymus Japonicus* Thunb.) の防潮林としての適応性」、「Tsunami Disaster in Solomon Islands in April, 2007 -Field survey on the damage reduction effect of coastal forest-」、「Types of Coastal Forests in Southern Sri Lanka and Characteristics」、平成20年に「The collision mitigation function of coconut palm trees against marine debris transported by tsunami -A case study of Tagalla on the southern Sri Lanka coast-」、「マサキ (*Euonymus Japonicus* Thunb.) の防潮林としての適応性 (II)」、「Survey report of the damage caused by the April 2007 Solomon Islands tsunami in the villages of Siboro, Suva, and Pailongge, Ghizo Island -Investigating the effect of trees in reducing tsunami damage-」、平成21年に「Endurance of the Casuarina coastal forest in southern Sri Lanka against the Indian Ocean tsunami」、「The damage caused by the 2004 Indian Ocean tsunami and the mitigating effects of the mangrove forest against the tsunami -A case study of Medilla, southern Sri Lanka-」、「スリランカ南部Tangalla における2004年インド洋大津浪による被害状況と海岸地形との関わり」、「Do mangroves have the potential to mitigate tsunami damage? - A case study of Godawaya on the southern Sri Lankan

coast after the 2004 Indian Ocean Tsumani-」、「庄内海岸砂丘地における防風効果からみた樹林帯配置」の合計14編がある。これに平成16年に発表した海岸林の解説「海岸林にまつわる話（I）」があります。さらに、中島先生が編者を務められた著書「海岸林との共生」が平成23年10月に山形大学出版会から出版されています。この他にも、多くの論文、著書、報告書などを残されています。学部長や副学長として大変お忙しい最中でも、決して研究を離れることなく、着実な成果を積みあげられた功績は誠に偉大であります。今更ながら頭の下がる思いです。

社会貢献としても、長きに渡り、山形県森林審議会会長、山形県農林水産技術会議委員、山形県環境影響評価審査会委員、山形県土地利用審査会委員、鶴岡市景観審議会委員等を努めてこられ、山形県や鶴岡市に大きな貢献をされてきました。さらに、大学の管理運営者としての手腕も眼を見はるものがあり、農学部長時代には農学部附属やまがたフィールド科学センターの設置、教育・学生担当理事・副学長として、基盤教育院の設置をはじめとする学士課程教育の充実に尽力されました。

私の中島先生と初めて会ったのは、昭和52年、内地留学先の九州大学の末勝海先生の研究室でした。研究者として基礎を作らねばならない時代の私を、若かりし中島先生が実によく面倒を見てくださいました。そのご恩を大切にしながら、それ以来、35年ほどになるでしょうか。私は中島先生をずっと頼りにし、先生が山形大学に転出されたあとも、何かにつけて相談し、話し合う時間を持たせていただいた。平成2年には、当時の文部省在外研究員としてオーストリアにもご一緒させていただきました。

各地で開かれる数々の学会の研究発表も、お会いできるのが楽しみで、声を掛け合いながら参加したものです。いつも先生のお力がなくては、ことが成り立たない、そういう方だったと感慨を深くしています。

また、山形県鶴岡市は、歴史的に古い町で、風土がいい、食べ物がおいしいと、先生の格別のお気に入りでしたが、もう一つ、ここは九州大学の恩師である末勝海先生が永眠されている地でもあります。私はこのところ年に一度、緑化土木学の集中講義で鶴岡の農学部に参りましたが、その度に中島先生が案内して下さってお墓参りに行ったものです。ずっと居て下さるつもりでおりました私にとって、本当に辛い中島先生との別れでした。これからは一人で、末先生と中島先生のお二方の墓前に参ります。

中島勇喜先生のご功績を讃え、心よりご冥福をお祈りします。

(平成23年12月1日)



オーストリア留学時の中島勇喜先生（右側）